育英会だより

発行所
財団法人 漁船海難遺児育英会
〒101-0047 東京都千代田区
内神田２丁目２番５号
光正ビル６階
電話 03（3256）1981
FAX 03（3256）1982
E-mail:mizuiro.ikuei@eos.ocn.ne.jp
水色の羽根募金運動

就任のご挨拶

漁船海難遺児を励ます全国協議会会長
財団法人 漁船海難遺児育英会副理事長
服部郁弘

本年六月のＪＦ全漁連総会において会長に就任した後、漁船海難遺児を励ます全国協議会会長並びに漁船海難遺児育英会副理事長に就任いたしました服部郁弘でございます。

協同の力をもって、仲間の残した子供たち（海難遺児）の成長を見守り支援していく運動の母体として、漁船海難遺児を励ます全国協議会が発足したのは昭和四十四年でした。当時、全国には四千百二十人にのぼる海難遺児が存在し、その七割が小中学校に在学中との調査結果が残っております。この子らに「せめて給食費程度でも」との浜の声を実現するために漁船海難遺児育英会が誕生したのは翌年の昭和四十五年でした。

それから三十七年余りが経過した現在、奨学生数は三百二十人と幸いにして大幅に減少いたしました。一方で支援の輪は、ＪＦグループをはじめ流通・加工・関係機関・団体等オール水産による継続的な支援から、水産に直接関係のない一般の方々まで広がりを見せて参りました。こうして漁船海難遺児育英制度は、三歳幼児から大学生等までを対象に奨学金の給・貸与事業を行う、充実した制度へと育って参りました。これはひとえに日頃ご支援を頂いている皆さま方のお陰と改めて感謝申し上げるところでございます。

ただ、こうした現状の中にも問題はあります。例えば遺児数の減少は、漁業者の少子高齢化や就業者の減少と言った問題も背景にあります。また、ここ十年ほどで見ると海難事故件数は減少しているとは言えません。一方、育英制度においても学習塾や習い事が当たり前のような昨今、教育に関する支出は増加していることが窺えます。さらに変化の激しい現代において、育英制度の中長期的なあり方なども整理し更なる充実に努めて行かなければなりません。

就任にあたり私は、こうした問題に対して関係する皆さまのお力を借りながら、幅広い視野と情熱をもって取り組んで参る所存です。なにとぞ皆さまのご支援とご協力を改めてお願い申し上げます。

最後に、奨学生の皆さん、ご家族におかれましては健康に留意され、日々明るく元気にお過ごしいただけますようご祈念申し上げます。

全国漁船安全操業推進月間に思う

漁船海難遺児育英会事務局

～海中転落事故からあなたの命を守るために～

水産庁は今年から十月を「全国漁船安全操業推進月間」と定め、全国漁業就業者確保育成センターが主催となって全国各地で漁業関係者を対象とした様々な事故防止キャンペーンを展開する。本会も共催団体として参加しているが、関係する機関・団体などが協力して①漁船安全操業に関する漁業者意識の向上②ライフジャケット着用率向上による事故発生の減少③安全操業の徹底による漁船海難発生の減少などを訴えていく。

漁業者が事故で亡くなっているが、そのうち半数以上が海中転落によるものでライフジャケット未着用者だという。作業の妨げになることを理由に着用を嫌がるケースが多いと聞くが、ライフジャケットを着用することで生存率は三倍も高くなることが証明されている。

試みに七月末時点の本会奨学生のデータで父親が被災した事故を調べてみると、その三割が「海中転落」によるものでうち六割は遺体が収容されていない。続いて多い「転覆・浸水」においても遺体が収容されないケースは三割に上っている。

悲しい過去の記憶をいたずらに呼び覚ますつもりはないが、先人の不幸を教えとして、大切な家族を悲しませることが二度とあって欲しくないとせつに願うものである。

漁業者の皆さん、どうか操業中はライフジャケットを必ず着用するようお願いします!!

なお、平成二十年四月より全ての一人乗り小型漁船でライフジャケットの着用が義務化される。

平成十九年度 第二回奨学生選考委員会

七月二十七日（金）、『平成十九年度第二回奨学生選考委員会』が開催され、「第二回奨学生出願者（七月十五日締切り）の選考」について審議されました。この結果、新たに幼稚園・小中高等学校在学の学資給与奨学生三人の採用が決定しました。

なお、前年度からの継続奨学生と併せて、新規奨学生を加えた九月十五日現在の奨学生数は、別表「都道府県別奨学生数」のとおりです。

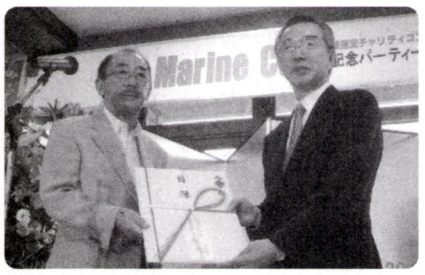
平成十九年度 第二回理事会・評議員会

平成十九年度第二回目となる『評議員会（八月三十日）』と『理事会（九月五日）』をそれぞれ開催し、「理事・監事の補欠選任」（評議員会）及び「副理事長の互選」、「評議員の補欠選任」、「奨学生選考委員の補欠選任」（理事会）を行いました。その結果、新たに就任された方々は次のとおりです。なお、退任されました植村正治前副理事長をはじめ各位が尽くされたご功績に深く感謝の意を表します。

▽副理事長・服部郁弘（ＪＦ全漁連会長）▽理事・髙岡淳（農林中金常務）、草野一紀（全日本中学校長会長）、池田芳和（全国連合小学校長会長）▽監事・伊賀久則（ＪＦ全漁連監事）▽評議員・櫻庭武弘（ＪＦ北海道漁連会長）、西念幸吉（ＪＦ茨城沿海地区漁連会長）、向山武（香川県水産振興協会専務）、小原正則（日本海難防止協会専務）、大内敏光（全国連合小学校長会事務局長）▽奨学生選考委員・小原正則（日本海難防止協会専務）

海難遺児チャリティコンペ 三重県津市で開催

七月二十八日（土）、特定非営利活動法人朝光クラブ（朝香誠彦理事長）が主催する「第二回マリンカップ海難遺児チャリティコンペ」が、三重県津市の津カントリー倶楽部にて開催されました。



このコンペは「海の日」を記念し、海の恵みと役割を啓発するとともに海難遺児の育英資金を支援することを目的として開かれたもので、当日はこれに賛同した一般メンバーや漁業関係者ら百九十六人が朝早くから会場に集まりました。この他、地元の子供たち約百二十人も招待され、鳥羽水族館・古田正美館長の講演や津高虎太鼓の演技など様々なイベントを楽しみました。また、お昼には三重県漁協女性部連合会の皆さんが腕によりをかけて作った郷土料理も振る舞われ、終始大盛況のうちに幕を閉じました。

コンペ終了後の表彰式で、朝香理事長より、参加者の皆さま並びに協賛百十六社から寄せられた寄付金（目録）を受け取った佐藤信三本会専務理事は「皆さま方のご趣旨に添い末永く漁船海難遺児育英事業のために活用させていただきたい」と述べ、感謝状を贈りました。

朝光クラブはじめご協力いただきました多くの皆さまに心よりお礼申し上げます。

お知らせ

ゆび募金（募金型自動販売機）による
平成19年8月末までの寄付金累計額は
6,924円です。
ご協力ありがとうございました。
※ゆび募金に関するお問い合わせは事務局まで

再生紙使用

奨学生からのお便り

＊送金ありがとうございます。就職が内定しました。今は、会社からの研修課題と国家試験対策に頑張っています。

（大分県　専二　濱田和則）

保護者からのお便り

＊娘は看護学校の実習、通信大学の勉強と最後の頑張りの毎日です。

（北海道　奈良栄子）

＊いつもお世話になっています。ありがとうございます。

（青森県　野里ゆみ子）

＊子供たち二人、頑張って大学へ通っています。ありがとうございます。

（石川県　櫻井三重子）

＊お世話になり、ありがとうございます。今、息子は就職活動に頑張っています。

（熊本県　岡村つねこ）

＊いつもありがとうございます。最後の部活も終わり、夏休み、娘は自動車免許を取るため教習所に通ってます。住民票が必要で役所に取りに行くよう本人に頼んだところ、「住民票の中にお父さんがいた！お父さんに会えたよ」と喜んで私に話してくれました。娘が三歳の時に主人は亡くなりましたが、主人の力はやっぱりすごいです。

（沖縄県　宜保初美）

寄付者からのお便り

＊ようやく盛夏も過ぎホッとしております。サンマもイカもおいしくなり、これからの秋を楽しみに皆さんもお元気に過ごしてください。お祈りします。

（千葉県　福田昌佳）

ちょっと一息…　第五回

私には三歳になる娘がいて、普段は保育所に預かってもらっています。毎日の送迎は私の母にしてもらっているので、私は主に保育所のイベント時に顔を出します。先日、久々のイベント『親子保育』に参加した日の事。一人の女の子が私に近づいてきて、「ねぇ～○○ちゃんの新しいママ？」と聞くのです。私は思わず絶句してしまい、沈黙が…。すかさず近くにいた先生が「○○ちゃんのママだよ。いつもはおばあちゃん！」と助け船を出してくれて事なきを得ましたが、母親に送迎を任せてラクをしている身分なので「ドキッ」としてしまい言葉が出て来ませんでした。

純粋な子供の一言は、時にうれしい魔法の言葉になったり、時にナイフのように鋭く厳しい言葉になったりしますよね。今回は親として子供の前で動揺してしまいましたが、次回からは笑顔でかわせる（後で泣く？）寛大な親を目指します。皆さんはいかがですか？

（K）

育英基金『募金・ご寄付』のお礼

平成十九年六月から八月までにご寄付をいただいた方々のご芳名を掲げ、厚くお礼申し上げます。

※ご芳名（敬称略）

一、漁協系統募金（各都道府県の漁連、信漁連等で構成する「漁船海難遺児を励ます地方協議会（略称・地方協）」等で取り扱った分で、一般寄付を含みます。）

〔六月〕◎**北海道**▽▽丸本本間水産㈱―チャリティーバザー収益金▽地方協◎**三重県**▽大漁ふれあい市▽谷口一―香典返し▽地方協◎**香川県**▽多田潔―香典返し◎**長崎県**▽尾崎三八一▽楠富啓一▽濱川和美▽地方協

〔七月〕◎**神奈川県**▽藤平アヤ―香典返し◎**富山県**▽辻村彰◎**静岡県**▽ＮＰＯ静岡葵調理福祉会▽駿州丸子町人倶楽部▽清翔会▽用宗漁協まつり実行委員会◎**広島県**▽全国水産物商業協同組合連合会―広島県大会募金▽広島魚商協同組合青年部―全水商連広島県大会にて◎**山口県**▽山口県漁協青壮年部連合会◎**長崎県**▽扇康一▽石原健三▽亀山太助▽黒瀬直幸―香典返し▽笹山喜平▽長崎市茂木漁業協同組合女性部▽濵田徳治―香典返し▽宮原真弓▽地方協

〔八月〕◎**青森県**▽漁業共済組合◎**千葉県**▽臼井重治▽キンメダイ祭実行委員会◎**三重県**▽特定非営利活動法人朝光クラブ―チャリティゴルフコンペ▽マリンバンクみえ桑名出張所▽地方協◎**京都府**▽後藤陳之◎**鳥取県**▽川部公夫―香典返し◎**広島県**▽三浦誠―香典返し◎**山口県**▽荒川正治▽岡崎正則▽岸強子◎**長崎県**▽古賀裕章▽地方協◎**沖縄県**▽宮古地区パヤオ管理運営委員会

二、一般寄付

〔六月〕◎**青森県**▽大山チセ◎**岩手県**▽佐々木強◎**宮城県**▽高橋安洋◎**埼玉県**▽小野沢通◎**茨城県**▽匿名◎**千葉県**▽飯村久子▽佐原芳隆◎**東京都**▽㈱久能木コーポレーション▽ＮＰＯ法人ジャパン・カインドネス協会―ゆび募金▽水産庁漁政部漁政課船舶管理室・同企画課▽浅海増殖研究発表大会募金―三会堂にて▽中央魚類㈱社長伊藤裕康―創立六十周年を記念して▽㈶東京水産振興会―創立五十周年を記念して▽安川糸子▽山﨑剛◎**神奈川県**▽食の神フェスティバル実行委員会―三崎船員労働福祉協会経由◎**静岡県**▽浜名湖マリンフェスタ実行委員会◎**京都府**▽中上清吾◎**兵庫県**▽五弓徹◎**奈良県**▽辻元正夫◎**鳥取県**▽浜野茂夫◎**岡山県**▽吉田厚子◎**鹿児島県**▽冨元小松

〔七月〕◎**宮城県**▽匿名◎**埼玉県**▽小野沢通▽田口昭博◎**千葉県**▽飯村久子◎**東京都**▽榎本みつ枝▽東京岩水会 会長 白土正治◎**神奈川県**▽南三千代◎**京都府**▽中上清吾◎**鳥取県**▽浜野茂夫◎**岡山県**▽吉田厚子◎**広島県**▽小林宏◎**福岡県**▽清水照久▽脇坂純一◎**鹿児島県**▽冨元小松▽冨元典嗣

〔八月〕◎**岩手県**▽佐々木強◎**宮城県**▽相澤秀憲―香典返し▽宮城県秋刀魚漁撈通信協会―全日海東北地方支部経由▽匿名◎**茨城県**▽匿名◎**埼玉県**▽小野沢通◎**千葉県**▽飯村久子◎**東京都**▽東京築地中央市場福祉報徳会◎**静岡県**▽小林艶子◎**京都府**▽中上清吾◎**鳥取県**▽阪井光平▽浜野茂夫◎**山口県**▽浦部久幸◎**福岡県**▽深倉俊至◎**鹿児島県**▽冨元小松

編集後記

▼本年より毎年十月に実施されることになった「全国漁船安全操業推進月間」。本紙では期間に関係なく、漁業者の方々にライフジャケット着用の大切さを呼び掛けていく考えです。読者の皆さまからも操業安全に関するご意見やメッセージ（形式は問いません）を是非、本会宛にお寄せいただければ幸いです。お待ちしております。

（M）

都道府県別奨学生数

（平成19年9月15日現在）

都道府県名	給与奨学生					貸与奨学生			合計（実数）	平成19年度第2回採用者						合計（実数）
	幼児	小学生	中学生	高校生等	小計	高校生等	大学生等	小計		幼児	小学生	中学生	高校生等給与	高校生等貸与	大学生等	
北海道	1	18	23	17	59	1	4	5	64（63）				2			2（2）
青森		4	2	1	7		3	3	10（10）							
岩手	1	4	4	6	15	3	2	5	20（17）				1			1（1）
宮城	1	7	5	8	21				21（21）							
秋田																
山形		1			1				1（1）							
福島		1	1	1	3				3（3）							
茨城				1	1		1	1	2（2）							
千葉	2	4	6	2	14				14（14）							
東京		2	1	1	4		2	2	6（6）							
神奈川																
新潟	1	1	1	1	4				4（4）							
富山																
石川		2			2		2	2	4（4）							
静岡		1	1	2	4				4（4）							
愛知							1	1	1（1）							
福井																
三重				1	1				1（1）							
京都				1	1				1（1）							
大阪			2	1	3				3（3）							
兵庫		6	2	7	15		5	5	20（20）							
和歌山				2	2				2（2）							
鳥取		1	2	3	6				6（6）							
島根		1	4	4	9				9（9）							
岡山		2			2				2（2）							
広島			2		2		1	1	3（3）							
山口		4	2	5	11	1	2	3	14（13）							
徳島			2	5	7				7（7）							
香川		1	1	1	3		2	2	5（5）							
愛媛	1	4	5	3	13	2		2	15（13）							
高知			6	1	7		2	2	9（9）							
福岡	1	2	1	1	5				5（5）							
福岡有明海																
佐賀玄海																
佐賀有明海				1	1				2（2）							
長崎	1	3	4	7	15	2	2	4	19（17）							
大分		2	1	2	5		2	2	7（7）							
熊本	1		2	2	5		1	1	6（6）							
宮崎		5	3	7	15	3		3	18（15）							
鹿児島		6	1	5	12		2	2	14（14）							
沖縄		4	2	3	9	2	1	3	12（10）							
合計	10	86	87	102	285	14	35	49	334（320）				3			3（3）

＊学資給与奨学生の高校生等には養護児を含む。
＊奨学金貸与奨学生には入学一時金のみの奨学生を含む。
＊休学中の奨学生は人数に含まない。
＊高校生等貸与奨学生は給与併願者であるため、合計欄には奨学生実数を（ ）で表示した。
＊平成19年度第２回採用者は内数である。